

# NSPA

JAPAN

発行人・金原 優  
編集・広報委員会



The Natural Science Publishers' Association of Japan

## 自然科学書協会会報

2013 11/15 NO. 4

<http://www.nspa.or.jp/>

一般社団法人 自然科学書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 神保町 101 ビル 1階 TEL 03-5577-6301

### 新理事長就任のご挨拶

理事長 金原 優

### 新専務理事ご挨拶と抱負

専務理事 南條光章

### 新専門委員長ご挨拶と抱負

東京国際ブックフェア報告

ほか

#### 新理事長就任のご挨拶

理事長 金原 優



員社(者)の出版活動を活性化すること  
は勿論ですが、その出版活動と流通促進  
を支える法的問題、制度的問題、経済的  
問題を解決していかなければなりません。  
自然科学書協会は専門書に特有な様々な  
問題に取り組み、出版環境の整備に取り  
組みます。

自然科学書協会は今期、販売・出版  
著作・出版権、研修、広報、総務の各常  
設委員会に加え、税制・再販流通特別委  
員会を設置しました。販売・出展委員会  
は国内、国外で開催される国際レベルの  
ブックフェアにおける出版物展示、ならび  
に全国主要書店と共催で集中的展示即売  
会を開催し、自然科学書の周知と流通促  
進活動を行います。

営の基本事項の管理業務を行います。今  
期設置した税制・再販流通特別委員会は、  
特に来年四月に予定されている消費税率  
変更に関する諸問題に取り組みます。殆  
どの出版物は再販制度に基づいて出版物  
そのものに表示されている定価で販売され  
ていますが、消費税率の変更に伴って出版  
物への価格表示をどのように取り扱うか、  
また、主として雑誌の年間購読で税率変  
更の前後にまたがる購読料の取り扱い等  
は専門書にとつて大きな問題であり、自  
然科学書協会として早急に取り組みなけ  
ればならない課題です。

七月一八日(木)に開催された自然科  
学書協会の総会において、長年協会の代  
表として手腕を発揮された後藤理事長の  
後を継いで理事長に就任することになり  
ました。難題の多い出版界において大役  
であり、どこまでこの重責を果たせるか分  
かりませんが、精一杯努力する所存ですの  
で会員各位ならびに業界、関係団体のご  
指導とご協力をお願い申し上げます。  
出版界の中でも自然科学書協会は創立  
六〇余年を経た歴史のある業界団体であ  
り、その間、理学・工学・農学・医学・  
家政学の五分野における専門書発行と流  
通にかかると様々な問題に積極的に取り組  
んで参りました。自然科学系の専門書は  
日本の科学技術研究に不可欠な知識と情  
報を日本の研究者に提供し、その研究の  
進歩と共に歩んで参りました。今日、日  
本の科学技術の研究レベルは世界の最先  
端にあり、今後も進歩・発展し続けてい  
くものと思います。こういった専門情報  
を研究者に適切にお届けするためには会

著作・出版権委員会は自然科学書に特  
有な複写複製問題、著作権ならびに出版  
者の権利保護問題、著作権法改正問題等  
に取り組みます。特に自然科学書は自然  
科学分野の研究促進に不可欠な情報であ  
り、権利保護と同時に部分利用、複製利  
用への適切な対応も重要です。その接点  
を探り、著作者と利用者双方の利益のた  
めの方策に取り組みます。研修委員会は  
自然科学領域における一般読者向けの講  
演会やセミナー、ならびに読者が気軽に  
参加できる書店店頭におけるサイエンスカ  
フェ等の企画と運営を行い、読者に自然科  
学に興味を持つてもらい、自然科学に親し  
んでもらうための活動を行います。広報  
委員会は会報の発行、ならびに協会内の  
様々な活動を読者に周知し協会活動のP  
Rに取り組みます。総務委員会は協会連

自然科学書協会としてこれまで以上に  
積極的に取り組まなければならぬ問題  
は出版の電子化です。出版物を電子媒体  
で利用したいというのは時代の流れであり、  
読者の当然の要請として出版社(者)は  
受け止めなければなりません。特に自然  
科学書はその読者対象が研究者である以  
上、様々な情報を素早く検索し、研究者  
の求める情報を適切に提供できる電子出  
版の形態を作り上げることが出版社(者)  
ならびに自然科学書協会に与えられた重  
要な課題です。電子媒体でコンテンツを  
提供するという技術的問題は既に解決し  
ていますが、問題はその利用条件、コン  
テンツ保護、価格設定等です。そのため  
には出版社(者)ならびに利用者間で更  
に話し合いが必要であり、自然科学書協  
会としては適正な専門書の電子配信へ向  
けて検討を重ねていきたいと考えています。  
引き続きご支援を賜りますようお願い  
申し上げます。

## 新専務理事ご挨拶と抱負

専務理事 南條光章

この度の当協会役員改選にあたりまして、専務理事を仰せつかりました。もとより浅学非才の身であります。お役目をお引き受けいたしましたからには、新役員と力をあわせて当協会のさらなる発展のため、微力ながら務めてまいりたい所存です。会員各社の皆様におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何とぞお願い申し上げます。

さて、当協会は昨年六月一日をもちまして一般社団法人の許可を受け、新たにスタートいたしました。また、三年後の平成二八年には創立七〇周年の節目を迎えます。その間、公益目的支出計画に則つて、移行期間中の責務を果たしていかなくてはなりません。会員各社の皆さまのご理解、ご協力をいただきながら、粛々と実行してまいりたいと存じております。

当協会は理学・工学・農学・医学・家政学の各分野の出版社が集い、その時々々の問題や課題を解決しつつ、また一方で会員同士の懇親にも力を注ぎつつ、存在感のある業界団体としての地歩を固めてまいりました。しかしながら、昨今の当協会を取り巻く問題や課題は、強固な繋がりがだけでは解決できるものばかりではなく、時としてそれを推し進めていく強力なリーダーシップと、その判断が以前にも増して必要であると感じております。このたび就任された金原理事長は、日本書籍

出版協会副理事長の重責を務めておられますが、当協会の新役員とともにその問題解決のために、十二分に力を発揮されるものと確信しております。

当協会では今期より、専門委員会の一つであります国際委員会を廃止して、五委員会体制でスタートいたしました。この専門委員会活動が、最も重要な活動であることは言うまでもありません。各委員長からは本誌面で抱負を語っていただいておりますが、積極的な委員会活動を通して、当協会会員各社のメリットが存分に発揮されるよう期待しております。また、新たに新任役員五名も加わりましたことで、新鮮な息吹を注いでいただけることを願っております。

現在、当協会会員社は六九社です。当期より金原理事長のご意向で会員集会の機会を増やして、当協会や業界活動への取組みをご説明していただくの趣旨です。当協会役員だけでなく、会員各社としてのご協力も当然ながら重要であります。会員各社の皆様におかれましては、何とぞ積極的に当協会活動にご協力、ご参加を賜りますよう、切にお願ひ申し上げます。

### 新専門委員長ご挨拶と抱負

#### ●総務委員会

今期の総務委員長を拝命いたしました。若輩かつ浅学で委員長のお器ではございませぬが、最善の努力を尽くし責務を遂行し

たいと考えております。幸いなことに、これまで永きにわたり総務委員長をお勤めいただいた産業図書出版社長が、担当常務理事として引き続き総務委員会に関わっていただくこととなりました。加えて副委員長の裳華房の吉野社長、さらに委員として金原出版の古谷社長にご就任いただきました。総勢四名ではありますが、若手からベテランまで素晴らしいメンバーにも恵まれました。

来る一〇月一七日に第一回の総務委員会を開催し、今後の活動方針及び総務委員会として行うべき事、改革できることなどを確認いたしました。六〇有余年の歴史ある協会ゆえ、これまでの流れを守らねばならぬ所は多々あります。しかしながら一般社団法人化により、これまで以上に収支のバランスを要求されることになりましたので、協会の財政安定化に向けた動きも提案していきたいと考えております。

総務委員会が主体となる案件としては、一二月五日の年末会員集会・懇親会（於：東京會館）の開催、またその際に配布する会員名簿の作成、二〇一四年春の英文会会員名簿の作成、同年五月の予算案、決算案の作成などがあげられるかと思っております。順次真摯に取り組み円滑な協会活動が行えるよう全力で努力してまいりますので、会員各社の皆様のご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。（委員長 長 滋彦）

#### ●広報委員会

この度、前期に続き広報委員長に留任しました。私に高所大所からの確かなアド

バイスいただける宮部担当常務理事と個人的で有識な九名の委員で運営して参ります。

さて、当委員会では二〇一二年に一般社団法人の認可を得て、協会の活動内容や存在意義を今まで以上に会員各社はもちろんのこと、業界全体願わくば一般国民にも広く告知をして行く使命があります。以下の三点が当委員会の主な活動内容となります。

○自然科学書協会講演会（年一回）

○会報の発行（二月、四月、七月、一〇月の年四回）

○関係メディアを通じての協会活動のPR活動

二〇一二年と二〇一三年の講演会は、新たな試みとして地方で開催される自然科学書フェアと分離して、いずれも七月に日本出版クラブ会館において独自開催をしました。お陰様でいずれも百名を超える参加者で、アンケート結果からも講師や講演内容に関して、まずまずのご満足をおいただき結果となりました。今期の講演会も同様のことを考えております。会報につきましても、会員各社により有益な情報をご提供できるように工夫して参ります。またPR活動もまだまだ当協会に関する認知度は低いので、積極的にインターネットや業界紙等を通じて、広く協会活動をPRしていき所存です。

つきましては、何卒皆様方のご理解とご協力・ご支援をお願い申し上げます。

（委員長 牛来真也）